

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月 21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472100316		
法人名	社会福祉法人相扶会		
事業所名	ビハーラ相扶		
所在地	〒729-6143 広島県庄原市尾引町263-2 (電話) 0824-75-2077		
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3472100316-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島県広島市南区皆実町1丁目6番29号
訪問調査日	平成29年3月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居者一人ひとりの出来ること・得意なことを生活の中で発揮していただき、生き生きと生活していただけることを目標にして取り組んでいる。また、季節を感じられる行事の実施やご入居者の喜びにつながる個別対応に力を入れている。当ホームが緑に囲まれた環境の中にあることを活かし、近くの畑で収穫した四季折々の新鮮な野菜を調理し食すことにより、自然の恵みや季節の変化を実感し、生きがいや楽しみのある豊かな暮らしを実現できるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営法人が、昭和40年代より高齢化・過疎化のすすむ地域の課題解決のために、様々な高齢者福祉事業を展開する中で、昭和16年に開設された事業所である。早くから看取りに組み、事業所での看取りに限らず、法人内の特別養護老人ホームでの看取り等、利用者家族の希望や状況に応じた支援を行っている。職員の研修ならびに防災避難訓練等も、法人の事業所一体となって行うものや、事業所独自で行うものなど、職員のスキルの向上に努めている。2ユニットで運営しているが、職員詰所を挟んで左右にユニットを配置し、職員間の協力体制や情報共有が有効に機能している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「法人の理念と基本姿勢」は、園内研修で管理者より周知されている。その理念を基に、グループホームスタッフで考えた「私たちの取り組み」を掲げている。「法人の理念と基本姿勢」「私たちの取り組み」を事務所内に掲示し、毎日、朝礼時に出勤者全員で唱和している。	「法人の理念と基本姿勢」のもと、事業所において「私たちの取り組み」を掲げ、それを実現するための「職員のきまり」をひとまとまりの資料として、新人職員のオリエンテーションで共有を図るとともに、理念と基本姿勢は、法人全体の研修会や年度初めなどの機会を捉えて、理事長などが説明し、実践につながるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元主催の催し物には参加するよう取り組んでいる。また、地元の小学校とは日頃から交流があり、毎年、運動会・花田植え等には招待していただき参加している。また、小学生の訪問もあり、ご入居者の楽しみになっている。	地元の小学校とは、運動会や花田植の行事などに招待されたり、事業所に招待したり等、交流を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	各部署のミーティングや職域代表者会議などにて、地域の高齢者の暮らしに役立つ内容を話し合い、法人全体で取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、活動報告・意見交換を行い、更なるサービスの向上に努めている。家族会に参加していただき、委員の立場からのご意見をいただいたり、年に1回はグループホームの行事に参加していただくよう計画し、より一層当ホームの内容を理解していただけるよう取り組んでいる。	運営推進会議では、スライドを利用して事業所の取り組みや利用者の状況を視覚的に説明したり、事故報告などの情報開示を積極的に行ったりすることで、出席者の事業や取り組みに対する理解も進み、意見も積極的に出されている。	事業所外の出席者が、市の担当者1名ならびに利用者家族2名で運営されているので、より多様な地域の意見を聴取するためにも、より多くの地域住民や関係者ならびに家族の参加について、検討することを期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町の担当者とは、指定申請の關係の相談や、利用者にかかわる相談・苦情に始まり、地域包括支援センター（市直営）、介護保険係の担当者とは、運営推進会議、市介護支援専門員協会の活動・研修等を通じた交流があり、質の向上に取り組んでいる。	市の各担当部局とは、利用者にかかわる相談苦情をはじめ、運営推進会議への出席等を通じて、協力関係をより緊密にするよう取り組んでいる。また、介護支援専門員協会やグループホーム事業者団体を通じた交流等、多様な関係性を通じた取り組みが進みつつある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	園内研修・職場内研修で、身体拘束についての学びの機会を設け、正しく理解できるように取り組んでいる。夜間や不在時等の防犯上の理由以外では、施錠はしていない。門扉、玄関はセンサーコールを設備して、必要時には使用し、職員が気付き、声掛けを行い、無断外出を防止している。	職員が常に課題意識をもって職務に取り組み、自らのケアが身体拘束につながっていないかと考えることができるよう、法人内・事業所内研修において、身体拘束についての学びの機会を設けている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	園内研修・職場内研修にて、学ぶ機会を設け、職員に周知徹底している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	職場内研修にて学ぶ機会を設け、権利擁護の重要性について理解を深めている。		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時・解約時には、十分な時間をとり、管理者・ホーム長より説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	相談や苦情を受け入れる窓口となる職員を明確にし、契約時には説明書を掲示し口頭で説明している。玄関には意見箱を設け、ご意見が頂けるようにしている。家族会開催前にはアンケートを実施し、家族会にてアンケート結果報告と共に、ご意見には回答している。また、いただいたご意見はすべて、職員ミーティングにて検討し、意識統一している。	利用者毎に担当職員を決め、利用者家族の来訪時には、その職員が家族に利用者の状況を説明するとともに、家族の意向等を十分に聞くように努めている。また、年に1回の家族会では、事前に家族アンケートを実施し、その結果を家族会で報告することにより、家族の理解促進と共に、家族会での意見交換の活性化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングは、ホーム長出席のもとで実施し、意見や提案を出し合っている。毎日、朝礼後ユニット間の情報交換の時間を設けている。	ホーム長が出席して開催される月例ミーティングや、毎日の朝礼後のユニット間の情報交換の際に、職員の提案・意見を聞き取り、夜勤時の業務内容の標準化やユニット間での利用者の状況や、気づきを改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ホーム長は代表者・管理者と連携して、職員のモチベーション向上に努めている。また「振り返りシート」により、職員の意向を反映している。法人内のキャリアパス整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	認知症実践研修やリーダー研修を積極的に受講させるなど、外部研修に参加させている。資格取得支援や法人内研修発表会を行なっている。職場内研修も定期的に行ない、職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市のグループホーム協議会、びほくいききネット（事務局）、市介護支援専門員協会、県老人福祉施設連盟等に所属し、情報交換、研修等に努めている。地域の同業者との交流は重要視している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者の状態に合わせながら、必要に応じて、ご本人の話を傾聴する時間を設け、不安を解消するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	ご家族の要望に合わせ、相談を受ける機会を作っている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	初期対応は、関係づくりで最も重要な場面である為、ホーム長・係長が対応することとしている。また、必要な場合は、併設の事業所のケアマネジャー等の支援を活用しながら対応を行っている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	利用者主体の生活を心がけ、生活の中に役割を持つことができるように援助している。また、食事作りや手作業などを、利用者と一緒にやり、ご利用者から学ぶ機会を設けている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	通院、外出・外泊、季節の衣替え等では、ご家族の協力をいただき、職員と共にご本人を支えていただいている。また、家族会を開催したり、2ヶ月に1回、活動報告・行事予定・ご本人の様子を伝える「お便り」を送付しており、ご家族との絆が深まるように努めている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	ご家族様の協力のもと、行きつけの理髪店を利用し、馴染みの関係が途切れないように努めている。また、地域の催し物に参加し、馴染みの関係が継続できるように援助している。	家族の協力を得て、なじみの理髪店や衣料品店を利用する等、なじみの関係の継続による、利用者の生活を豊かにする支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日頃の利用者同士の関係を観察し、変化等を職員間で共有し合いながら、トラブルが無くよりよい関係が継続できるよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とされているご利用者には、随時連絡を取り、ご家族の相談もその都度受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や行動から、ご利用者の希望や意向を把握するように努め、ケアカンファレンスやモニタリングの際、スタッフ間で検討し、希望や意向に沿えるように取り組んでいる。	日頃の利用者や家族との会話や、利用者の行動から、希望や意向を把握するよう努めている。その情報を、ミーティングやカンファレンスの際に共有し、希望や意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所アセスメント時、ケアプラン作成アセスメント時に、ご家族・ケアマネジャー等から情報を集約しており、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や訪問看護師によるバイタルチェックファイル等共有し、現状の把握に努めている。また、毎月のミーティング・3ヶ月に1回のモニタリング等で、課題を明確化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご利用者・ご家族のご意向を考慮に入れ、ポジティブプランを作成するように努めている。ケアカンファレンスでは医療・栄養・介護の専門職が集まり、それぞれの立場から意見を出し合っている。6か月ごとの見直し・3か月ごとのモニタリングを行い、状態の変化があった時は早急に見直し、新たな計画を立てている。</p>	<p>利用者がより良く暮らすために、潜在能力を引き出し、実現したいことを範囲する「ポジティブプラン」という考え方を共有し、利用者ならびに家族は勿論、介護・医療専門職に加え、必要に応じて後見人等も含めて話し合い、介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケース記録を重要としており、日々の様子が分かるように詳しく記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人全体でご利用者・ご家族の暮らしを支えるように、柔軟な支援を展開しており、具体的には、管理栄養士の栄養評価・指導や訪問看護師による健康管理、老人介護支援センターによる相談や調整等を実施している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の敬老会や小学校での地域運動会・花田植え等に参加し、日頃から地域の方々との交流機会を増やし、豊かな暮らしを楽しみつつ、同時に地域の見守りによる安心安全を得られるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご利用者にとって、より適した医療が受けられるように、ご利用者・ご家族の希望を大切にして支援している。ご家族の希望に応じ、受診援助やご家族と共に通院に同行したりしている。</p>	<p>利用者ならびに家族の意向により、かかりつけ医を決定でき、受診時にはかかりつけ医の生活状況の質問に、必要に応じて、事業所職員が適切な報告ができるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の訪問看護師による定期訪問時や月1回程度のかかりつけ医受診・往診時等で連絡相談を密にし、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。また、必要時には適時相談・報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合には、再々、様子伺いし、病院との情報交換を行い、入院中にご利用者が安心して治療でき、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族との話し合いや、医師への相談を繰り返し、ご利用者・ご家族にとって最良の援助が提供できるよう努めている。 （「重度化した場合の指針」・「看取りの指針」については、重要事項説明書に全文を掲載して、入所時にもホームとしての対応を説明している。）	利用開始時に、「重度化した場合における対応の指針」ならびに「看取りに関する指針」を用いて丁寧に説明し、状況に応じて、利用者ならびに家族との話し合いを繰り返すことにより、方針の共有に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応が速やかに行えるように、事務所内にマニュアルを掲示している。園内研修・職場内研修で、応急手当や初期対応の研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人全体の避難訓練に参加すると共に、グループホーム独自での避難訓練を実施している。避難訓練には地域の参加もあり、協力体制を築けるように努めている。	年間2回の法人全体での防災訓練ならびに年間1回の事業所単独での防災訓練により、職員の対応力の向上に努めている。火災自動通報装置では、消防署に加え地元自治振興センターへも通報するよう設定し、万一の際の協力が得られる体制作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇に関しては、園内研修・職場内研修にて研修項目に取り上げ、チームとして向上するように取り組んでいる。	職員間でプライバシーの確保に関する意識のバラツキを課題と認識し、法人内・事業所内研修を開催し、チームとして常に人格を尊重した支援に努めるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	傾聴の姿勢を基本にして関わり、ご利用者を主体とした生活が提供できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者一人ひとりの体調やペースに合わせて、生活できるよう心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	スタッフによるお化粧品・散髪を実施し、ご利用者が気分良く生活できるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備や片付けは、ご利用者一人ひとりのできることに着目して声掛けし、役割として実施できている。職員も同じ食事を摂っており、味や食材について会話しながら食べている。また、季節ごとの旬の食材を使うことや行事食には力を入れており、食を楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、お誕生日にはご本人の好きな献立にして、お祝いしている。	食事のメニューについて、利用者の希望が表出された場合は、それに沿って対応するよう支援している。また、利用者の状況に応じた調理や後片付け等、家庭生活と同様の環境づくりに努め、食事の際には、職員と利用者が味や食材などについて、楽しく会話するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>併設施設の管理栄養士に2ヶ月に1回の検食を依頼すると共に、検食日の1日分のカロリー計算を依頼し、栄養指導を受けている。体重コントロールが必要な方については、見た目で本人がストレスを感じないように配慮し、カロリー制限の食事を提供したり、減塩の調味料を使用し、食材のうまみを活かしながら減塩できるように取り組んでいる。水分摂取量の足りない方には、本人が好きな飲み物を提供したり、飲み方を工夫したりして、できるだけ水分摂取できるように取り組んでいる。また、食事水分チェック表にて把握し配慮している。パン食が習慣の方には、朝食時に、パンを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>ご利用者の力に応じ、歯磨き・義歯の手入れ・うがい等の支援をしている。自歯の方に関しては定期的に歯科衛生士の口腔ケアが受けられるように対応している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定期的なトイレ誘導と挙動（しぐさ）判断での誘導により、トイレでの排泄を増やすように心掛けている。</p>	<p>定期的なトイレ誘導と利用者個々の仕草等から、排泄のサインを読み取ってのトイレ誘導に加え、起床後の水分摂取や朝食後にトイレに座るなど、トイレでの人として当たり前の排泄ができるよう支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘傾向にある方に対して、できるだけ薬に頼らず、自然排便が可能となるように、運動や水分摂取、食事に繊維物の食品を取り入れたり、野菜の多い献立にしたりしている。また、腸内環境を整える飲み物を飲用する等の対応をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間帯・入浴時間・回数等、ご利用者の希望に合わせて支援している。</p>	<p>利用者の希望による入浴に努めるとともに、清潔保持に加え「気持ちのよい」「リラックスして良好なコミュニケーションが取れる」入浴支援に努めている。利用者は、個々の好みに合わせたシャンプーや石鹸・シェーバーなどを持ち込み利用しているものも多い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者の状態を観察しながら、無理のないように適度な休息が取れるよう援助している。夜間眠れない利用者に対しては、日中の活動が活発に行えるように支援すると共に、不眠の原因を早急に解明し、必要な援助ができるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が処方薬を把握しており、副作用に関しても、個人ケース記録に明示している。服薬に関して、変化の有無を早期発見できるように観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者やご家族から生活歴や好きなこと、得意なことを聞いて、実行できるように支援している。生活の中で役割となり楽しみながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に沿って、外出援助するよう取り組んでいる。身体的に遠方への外出が難しい方は、車椅子での散歩を積極的に行っている。また、退屈な状態や精神的に落ち着きのない状態が見られれば、ドライブ等実施し、気分転換できるように支援している。	翠に囲まれた事業所の周囲の散歩を日常的に支援することで、季節感を感じ、運動量の確保につなげている。また、月に1回程度の外出行事や夏季の花火大会等への外出を、家族やボランティアの協力を得て支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族との相談の上、利用者一人ひとりの力量に応じ、金銭管理が行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者の希望時には、あらかじめご家族の了解を得て、即応している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭でよくある物品を取り揃えている。壁には、季節を感じられる個人の作品や合同作品を飾っている。心が和むように、居間には、観葉植物や花を飾ったり、人形を置いたりしている。</p>	<p>共用空間は、不快や混乱につながる刺激的な光や音は無く、広い窓からは自然光が差し込み、居心地良く過ごせる環境が整っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>事務所は、利用者が自由に出入りできる空間にしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族より家での生活の様子をお聞きし、担当職員が中心になり、その人らしい環境づくりに努めている。</p>	<p>居室には、使い慣れた家具がそれぞれ持ち込まれ、孫の写真等を活用することで、利用者が落ち着いた雰囲気の中で、心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーで、手すりも随所に設置してあり、安全に、出来るだけ自立して生活できるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ビハーラ相扶

作成日 平成29年4月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		より多様な地域の意見を聴取するためにも、運営推進会議の参加メンバーの見直しや拡大の必要あり。	家族代表以外のご家族の参加を募る。	年6回の運営推進会議の日程を全ご家族にお知らせし、参加可能な日程を申し出て頂き、運営推進会議に出席いただく。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。